

松本歯科大学 歯科矯正学講座では、以下の研究を実施しています。この研究について詳細に知りたい方は、「問い合わせ先」までお問い合わせください。

また、この研究の研究対象者に該当すると思われる方で、ご自身の試料・情報を「この研究課題に利用（又は他の研究を行う機関に提供）してほしくない」と思われた方は、試料・情報の使用を拒否することができますので、「試料等の研究への利用に関する不同意書」をご提出ください。

研究の名称	松本歯科大学病院矯正歯科における過去 10 年間の口唇裂・口蓋裂患者の Goslon Yardstick および 5-year-old index を用いた上下顎歯列弓関係の評価
研究責任者	歯科矯正学講座 教授 影山 徹
研究期間	2025 年 7 月 1 日～2030 年 3 月 31 日
研究の目的・概要	研究名称にあります Goslon Yardstick、5-year-old index とは、唇顎口蓋裂の患者様の咬み合わせの状態を視覚的に評価し、歯科矯正治療を行う際の難易度の指標として用いられます。唇顎口蓋裂の患者様は、出生時から医科でフォローアップをされており、長野県では顎裂部骨移植とよばれる手術が比較的早期に行われ、早期に矯正歯科へ紹介されるため、このような治療難易度の予測が可能になります。過去 10 年間の唇顎口蓋裂の患者様の咬み合わせの傾向を把握することで、治療計画を立てる時や、実際の治療に反映できることが期待されます。
利用又は他機関に提供する情報	2009 年 1 月～2019 年 12 月までに松本歯科大学病院矯正歯科で検査を受けられた片側性唇顎口蓋裂の方の、初診時歯列模型を利用します。 試料：初診時歯列模型 情報：氏名、性別、生年月日、疾病名
試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供する場合はその方法を含む）	初診時歯列模型を矯正歯科医が分析し、Group1～Group5 に分類します。その分類により、実際に歯科矯正治療を行う際の難易度が把握できます。個々の顎裂部の形態や大きさ、その年代の裂隙封鎖の術式や時期によって影響を受けるため、過去 10 年間という長い期間を調べることで、そのような背景を反映することができ、傾向を知ることができます。
試料・情報を利用する者の範囲	・歯科矯正学講座 影山 徹 ・歯科矯正学講座 川原良美 ・歯科矯正学講座 村岡理奈 ・歯科矯正学講座 羽鳥 遼 ・歯科矯正学講座 倉科勇太 ・矯正歯科 中野翔太郎
問い合わせ先	松本歯科大学歯科矯正学講座 教授 影山 徹 電話：0263-51-2086